

組織目標評価報告書（令和4年度）

33

部局名: 生殖補助医療技術教育研究センター

部局長名: 舟橋弘晃

目標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①社会と学生のニーズにマッチした教育プログラムを提供する。</p> <p>②実習内容を見直すなど、コースワークの充実を目指す。</p> <p>③特別コースの内容充実とキャリア支援、適切な進路指導を図る。</p> <p>④他の教育機関と連携して、生殖補助医療技術教育の充実を図る。生殖補助医療技術教育カリキュラム標準化懇談会を開催し、本教育プログラムの国内普及に取り組む。</p> <p>⑤国内外の協力教員の活用に努める。</p>	<p>①社会と学生のニーズにマッチした学部・大学院レベルの教育提供を目指し、アンケートなどを参考にプログラムの教育内容を見直し、より効果的プログラムとなるよう努めた。</p> <p>②実習内容を持続的に見直し、新機器購入他を含め、コースワーク充実を目指した。</p> <p>③コンプライアンス教育、アカデミックキャリア支援などの充実を図るとともに、学生の志望に合う進路指導を行った。</p> <p>④生殖補助医療技術特別コースについて、研修先・内容の再検討を含めた検証を行った。履修生向けキャリアサポート教育、現場で活躍する技術者にニーズの高いリカレント教育を充実させた。また、生殖補助医療技術教育カリキュラム標準化懇談会を主催し、本教育プログラムの普及及び充実に向けた取り組みを主導した。</p> <p>⑤県内外の生殖補助医療機関及びアカデミアと連携し、学生の教育及びリカレント教育を実施した。また、国内外の協力教員にお願いしてリカレント教育を含むセミナー・教育を実施した。</p>
②研究領域	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①生殖補助医療技術に関する研究成果の公表に努める。</p> <p>②国際共同研究を推進するとともに、国際交流の活性化を図る。</p> <p>③生殖補助医療技術教育に関する研究について積極的に取り組む。</p>	<p>①生殖補助医療技術に関する研究成果を国内外学会で発表し、査読付き論文として公表した。</p> <p>②生殖補助医療を国際的に展開するIVIと深い関係にあるスペインのムルシア大学獣医学部と学生の交換や研究面での連携を強化し、新たな共同研究プロジェクトの打ち合わせのために来年度に教員の相互訪問を計画している。</p> <p>③生殖補助医療技術教育に必要な実習用機器を更新するなど、関連研究推進のための環境整備を行うとともに、科研費等外部資金の獲得に積極的に取り組んだ。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①生殖補助医療技術者向けリカレント教育の充実を図る。</p>	<p>①生殖補助医療機関で中心的な立場にいるラボ長クラスの方に講師を依頼し、生殖補助医療現場のマネジメントやその立場を目指す胚培養士に役立つリカレントセミナーを開催するとともに、生殖補助医療に欠かせない基礎技術に関するハンスオンセミナーを開始するなど、リカレント教育の充実に取り組んだ。</p>
④管理運営領域	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>①関係部局の安全衛生委員会と協力し、安全衛生の周知徹底を図る。</p> <p>②運営委員会および学部・大学院の特別コース等でコンプライアンス遵守の周知徹底と遵守意識向上を図る。</p>	<p>①運営委員会での協議や意見が反映する体制での運営を行うとともに、農学部や医学部保健学科の安全衛生委員会と協力し、安全衛生の周知徹底を図った。</p> <p>②学部・大学院の特別コース等のコースワークの中でコンプライアンス遵守について取り上げるなど、周知徹底と遵守意識向上を図った。</p>
⑤センター・機構等業務	管理運営領域の目標の達成状況
<p>①学部「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」、大学院「生殖補助医療学コース」を実施するとともに、内容見直し・改善を継続的に実施する。</p> <p>②受講者アンケートを実施し、リカレント教育内容の充実を図る。</p> <p>③現場で胚培養士として活躍中の社会人の博士前期・後期課程への入学を推進する。</p> <p>④国内での生殖補助医療技術教育の普及を推進する。生殖補助医療技術教育研究カリキュラム標準化懇談会を事務的にサポートする。</p> <p>⑤事務業務の見直し・システム化を推進する。</p>	<p>①学部「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」、大学院「生殖補助医療学コース」を実施するとともに、内容見直し・改善を継続的に実施した。</p> <p>②実施した全てのリカレントセミナーで受講者アンケートを実施し、リカレント教育内容の充実を図った。</p> <p>③現場で胚培養士として活躍中の社会人に職場や関係学会で積極的にアドミッション広報を展開することで、博士前期・後期課程への入学を推進した。</p> <p>④コロナ禍にあっても、西日本の中学や本学に多く進学する高校に積極的に出前授業をWeb・対面で実施した。毎年、農学部や医学部保健学科の新生入生の中に受講して志望した学生がおり、着実に成果を出している。生殖補助医療技術教育研究カリキュラム標準化懇談会を主催するとともに事務的にサポートすることで、またリカレント教育を通して、国内での生殖補助医療技術教育の普及を推進した。</p> <p>⑤ルーチンの業務作業のシステム化を推進するとともに見直しを行うことで、効率よく事業を推進する体制になってきている。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。